

市長と地域の懇談会【佐八】

・開催日時 令和2年11月25日（水） 19：00～20：00

・まちづくり協議会区域名 佐八

・会場 大倉うぐいす台公民館

・参加者数 11人

《質問・意見》

・障害施設に勤務しているが、コロナの影響により、作業が減少し、経営が厳しい。市からの協力についてなど、市長と施設での懇談をお願いしたい。

《回答》

・日程調整をさせていただきたい。

《質問・意見》

・避難所の開設はまちづくり協議会で行っているが、市からの避難所開設の連絡は、まちづくり協議会なのか、自治会長なのか。

《回答》

・自治会長へ連絡をさせていただいている。

《質問・意見》

・大倉うぐいす台前の植え込みは、ビールの空き缶ゴミが多い。また、神路園隣の墓から辻久留台にかけてもゴミが多い。看板のみでは効果がないと思われるが。

《回答》

・関係機関と情報共有し、あわせて環境整備対策がないか考えてみる。

《質問・意見》

・赤福新工場の建設が予定されているが、工場から宮川に排水される、浄化された水は安全なのか。例えば、表示板「〇〇ppm」やインターネットで皆が目に見えるようにしてほしい。安心して飲める水をお願いしたい。

《回答》

・先方にどういうことができるのかを含め伝えたい。現在、水質処理レベルは上がっており、大きな心配はないと思うが、ご心配が少しでも安心できるよう、努力していただけるよう伝えたい。

《質問・意見》

・介護タクシー券等を受けられない高齢者に対して、病院へ行く場合のタクシー券の発行を考えていただきたい。

《回答》

・他のまちづくり協議会で公共交通の補完的な実験を実施している。今後、様々な補完的な実験をしながら、どのようなことが地域にとって適切なのかを判断していきたい。

《質問・意見》

・三郷山の配水池へ水を上げる系統を示してほしい。

《回答》

・後日、系統図をお渡しします。

《質問・意見》

・耕作放棄地を津村町は花街道に一部利用されているが、他に活用できないか。これ以上花街道を広げても管理が大変である。補助金で整備されているため活用範囲が狭く、現状農地に限られる。国の規制が緩和されれば使用し易くなる。

《回答》

・参考にさせていただきます。

《質問・意見》

・駅前再開発ビルに市の保健センターが入るのか。他にどのような施設が入るのか。進捗もあわせて教えてほしい。

《回答》

・保健センターや保健と福祉の機能をもっているところを予定している。伊勢市で一番公共交通が集中しているため、車ではなくても利用できる環境を整備したい。さらに介護認知症関係の高齢者向け相談機関、障害のある方の相談機関、経済的に困っている家庭の相談機関をワンストップとなるよう整備したい。これまで相談を別々にしていたため、一括

してきちんと相談を受けて、民生委員をはじめ、みんなでフォローできる環境を整備し、福祉の網の目をサポートしていきたい。市が3フロアを予定しており、ハローワークについても移転予定となっている。福祉の相談を受けながら、働く相談を受けることができるようにしたい。今後、市民の皆さんが、安心していただけるよう相談機能を追加していきたい。

《質問・意見》

- ・市から高齢者へ出される文書をわかりやすく、簡潔にしてほしい。一人暮らしの方へは、家族による説明ができない。
- ・災害時要援護者登録制度から、避難行動要支援者制度へ変わったが、高齢になると変化への対応が難しくなる。支援者支援ガイドブック等が配布されているが、文字が多いと理解しづらいため、わかりやすくしてほしい。要支援者の身体状況の把握と要支援者への十分な説明をお願いしたい。

《回答》

- ・理解しやすいものを研究する。
- ・取り組めるところから取り組みたい。

《質問・意見》

・伊勢市の下水道整備は全国的にみると遅れているように思われる。佐八学区は伊勢の山間部に位置するが、今後、下水道は整備されるのか。大倉町・佐八町・津村町は大湊町の宮川浄化センターまでの幹線整備は無理かと思う。小規模的な施設でなければできないと思うが、下水道整備計画はあるのか。

《回答》

・下水道事業計画では佐八町までの予定はない。現状、人口減少のため、事業計画も5年前、10年前に比べ、20%、30%圧縮して進めている。佐八町から山間部は難しいと考えている。

《質問・意見》

・まちづくり協議会で千の社付近を清掃したときに、ゴミのポイ捨てが多いと感じた。伊勢市内がこのような状況にあることを小・中学校の授業に組み込んではどうか。

《回答》

・毎年勢田川、宮川で実施している河川清掃に参加しているところでは、愛着意識が蓄積され、ごみを捨てるににくくなるといった話も聞いている。今後、環境教育を進めていきたい。

《質問・意見》

・高齢化・少子化が進んでおり、自治会の高齢化も進み、担い手がない。また、まちづくり協議会の人材も不足しているなか、今後のまちづくり協議会の存在意義、役割は。

《回答》

・人口が減少するなか、自治会単位でできないことが多くなってくるが、それをまちづくり協議会が補完的なことをすることになると考えている。平成23年度からまちづくり協議会が立ち上がり、様々な事業がされてきたなか、各自治会、まちづくり協議会でたな卸を実施することも必要かもしれない。また、少しでも収益事業をすることにより、有償ボランティアとして参加することとなり、張り合いが生まれることも考えられる。コロナ渦で半年から1年、活動がしにくい間、自治会活動、まちづくり協議会活動の整理整頓の時期には良いのではないか。今後、柔軟に一緒に考えていきたい。